

演奏解釈の共有・蓄積プラットフォームの開発 —ソーシャル音楽院「Wikivatoire」—

小池宏幸 (プラスアド株式会社)

背景・目的

- ・ 芸術的な演奏には、「**演奏解釈**」が必要
演奏解釈: 楽譜に記述されていない作曲者の意図や共通の解釈
- ・ 「演奏解釈」は、**共有・蓄積されてこなかった**
- ・ 蓄積・共有することで、より芸術的な演奏の実現を図る

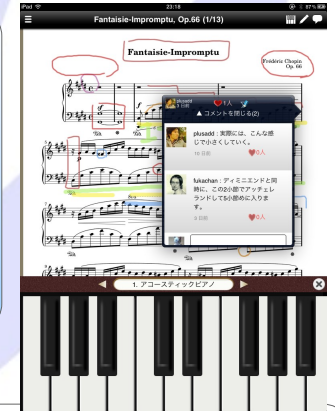


楽譜への書き込み例

そこで

アプローチ

- ・ 5名のピアニストのヒアリングを元に書き込みを形式化
- ・ iPad用アプリと、蓄積・共有サーバの開発



iPad用アプリ

結果は

2つの実証実験

(1) Socialな書き込みの蓄積・共有

- ・ 11名のピアニストが自由に書き込み
- ・ 1週間で、**203書き込み**、**267コメント**
- ・ ユーザの声「**演奏に活かせる**」「**楽しい**」



書き込み例

(2) オーケストラでの共有

- ・ 3名のTp奏者間で書き込み・譜めくりを共有
- ・ ユーザの声「**今のページが分かり便利**」「**オケの歴史を語る貴重な資料**」

イイこと

従来の技術からの優位性

- ・ レッスンなどでは得られない、**未知の音楽表現を大量に獲得可能**
- ・ より**楽しく継続的に楽曲分析が可能**
- ・ Social からのアプローチは存在しない

期待される効果

- ・ 演奏解釈に価値を付与
- ・ 演奏表現力の向上
- ・ 演奏解釈のアーカイブ
- ・ コンピュータ音楽の発展

将来は

普及の見通し

- ・ 2011年度中にサービスリリース
- ・ ターゲットは国内に400万にいる演奏者
- ・ 既存の楽譜ソフトへの導入、教育機関への導入を図る